

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793100017		
法人名	有限会社 和みの里		
事業所名	なごみの里グループホーム		
所在地	福島県田村郡三春町大字熊耳字上荒井82番地の1		
自己評価作成日	平成21年6月26日	評価結果市町村受理日	平成21年9月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	960-8043 福島県福島市中町4番20号		
訪問調査日	平成21年7月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人ができることを把握し、個々のケアに取り組んでいる。</li> <li>・身体機能の低下や認知症の進行により重度化してきているが、安心して生活できるように、健康管理に気を配り、協力医療機関と連携を図っている。</li> <li>・利用者様の状況変化を速やかにご家族へ報告し、対策を話し合い、信頼関係の構築と維持に努めている。</li> <li>・近所の方と挨拶を交わし、また、不幸があったときなどは、告別式等へ参列するなど日常的な付き合いに努めている。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>運営推進会議は開設以来定期的(2ヶ月に1度)に開催し、民生委員や地域代表者、利用者の家族代表者、町職員、地域包括支援センター職員等で構成され、町職員、地域包括支援センター職員は毎回参加している。また、テーマごとにアドバイザー(警察職員、消防職員、弁護士等)の参加を要請して、充実した協議を行っている。内容も多岐に渡っており、運営推進会議の意義を十分に活かした取り組みを行っており、全職員が出席し、会議の内容を共有し、サービスの質の向上に努めている。また、今年4月に同敷地内にデイサービス事業所を開設したのに伴い、施設間の交流により 馴染みの方との交流の復活や地域との交流がさらに深まってきている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を職員で構築し、行事などを通じて地域住民にも参加していただき理念の実践に努めている。	法人の理念のほかに地域密着型サービスを踏まえた事業所独自の理念を全職員で協議し作り上げ、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の方々とは日頃から挨拶や地区行事を通じてコミュニケーションを図っている。また、自主防災訓練組織の一員として地域に協力。グループホームの避難訓練実施に際しても隣近所の協力を得ている。	運営推進委員の協力により、地域の行事や事業所の行事に相互に参加し、交流を深めている。また日頃より隣近所とは友好的な付き合いができており、災害時の協力体制もできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者が認知症キャラバンメイトとして行政担当者とともに認知症サポーター養成講座を行い、三春町民の認知症の理解や支援が得られるよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の定期的な運営推進会議を開催。地区長や行政担当者、地域包括支援センターなどからなる会議メンバーへGHの運営状況を報告した上で意見や助言をいただき日頃のサービス向上に活かしている。	定期的に開催しており、事業所の現況報告はもとより、協議内容は防災関係、介護保険法の改正、身体拘束、事故発生時対応等多岐にわたっており、テーマにそってアドバイザーの参加を要請し、充実した協議を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	判断に迷うような事例や運営上の確認事項が生じた場合には、連絡・相談し助言をいただいている。	町職員や地域包括支援センターの職員には必ず運営推進会議へ出席してもらう中で、事業所の実情やケアサービスの実践状況を報告しており、事業所の直面している課題等の理解を得て、課題によっては協働で解決していく関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、玄関のチャイムを設置。外部からの来客者にもわかるようにしている。また、拘束に関しては年間研修予定に組み入れ、職員の意識向上と実践に取り組んでいる。やむを得ず実施する場合には、家族に口頭や書面にて説明し、同意を得て実施。実施中は弊害を最小限にとどめられるように、会議を開き全職員で話し合い共通理解に努めている。	全職員が身体拘束の弊害を十分理解し、身体拘束をしないケアを実践している。また、日中は各出入口の施錠はしておらず、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職員に対しては、入社時のオリエンテーションや入社後の指導の際に、職員に対しては職員全員参加のGH会議で確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の状況を家族と話し合い、必要な支援が受けられるよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護報酬改定に伴う、加算について説明を行い、同意を得られたことを書面でもって確認している。また、経済的な不安などについても個別の状況に応じて相談・支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	福祉サービスに関する運営適正委員会のポスターを玄関に掲示。また、同じくホーム内での苦情相談窓口担当者を掲示し意見や不満、苦情を表わせるようにしている。面会時には、近況報告とともに家族へ意見・要望等について確認している。	毎月利用者の状況報告を行っており、家族の要望等を気軽に話せるような信頼関係の確立に努めている。面会時や運営推進会議等で気軽に話してもらうように努め、出された意見等は運営に反映させる体制になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議や年2回の個別面接を行っているほか、必要に応じて職員と話し合っている。	法人内では毎月1回職員の全体会議を開催しており、代表者や役員と職員間で意見の交換をしている。また、会議終了後は各事業所にて研修や提言を行っており、職員はこの会議への出席を楽しみにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務への取り組みや意欲を把握し、また資格取得を推奨し、手当てに反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員レベルに合わせた研修会への参加や事業所内で定期的に勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に所属し、協議会主催の研修会や実践者研修等へ参加し、情報収集や交流を図っている。また、今後グループホーム連絡協議会に所属する施設間での職員交換研修にも参加する予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅中から自宅へ訪問し、本人の思いを確認しながら必要なサービスの提案を行い、安心して入居していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人の思いと、ご家族の思いを把握しホームとして援助する方針を話し合いながら確認するように努め、信頼関係が築けるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の思いと、ご家族の思い、その時の状況などから入居前にデイサービスやショートステイなどのサービスを担当ケアマネなどと連携を取りつつ対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における家事(調理や洗濯)や草むしりなどを職員とともに行っていただき、少しずつなじみの関係を築き、ひとつの物事ができた時には共に喜び合えるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族への連絡に密にし、ご本人の状態を報告。場合によってはご家族へ支援をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでに行きつけの理美容などを利用できるようにしている。また、親類や友人が面会で来所した際には、また来ていただけるようお願いしている。	親類や友人が面会に来ており、今までのつきあいが続けられるよう支援している。本年4月にデイサービス事業所が併設されたのに伴い、馴染みの方との交流が復活している。また、美容院や商店は行きつけの店の利用を支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様個々人の生活や趣向などを把握。利用者様同士の関係も把握した上で、テーブルの配置を考慮したりして利用者様同士がトラブルにならないよう努めている。また、利用者様同士が落ち着いて会話が楽しめるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様が退去され他界後も利用者のご家族をフォローし支援していた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	受け持ち制としている職員と介護支援専門員が中心となって本人の意向の確認を行い、ケースカンファレンス等で検討している。	利用者に対して担当制を実施しており、常に利用者の思いや意向の把握に努めているが、今後は意向の把握等についてはセンター方式のシートの利用を検討している。	意向の確認が困難な利用者についても、普段の仕草や家族からの聞き取り、職員の気づき等によって、利用者本位のサービスとなるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報と利用者様との日々の会話から、これまでの生活歴を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、おひとりおひとりの身体機能、認知症の状況を細かく観察し、全職員が共有、対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスを月一回開催し、職員からの多面的な意見を出してもらい、また、家族の面会時や電話での話し合いで確認を行いケアプランを立案している。また、介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに入退院時には医療機関(連携協力医療機関も含む)の主治医、ケースワーカーなどの専門職、ご家族と話し合い新たなケアプランを作成している。	利用者の状況や担当者の気づき、職員や家族の意見を踏まえ、毎月カンファレンスを開催し、利用者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を経時的に記録し、普段と違う様子や会話をそのまま記入。朝夕の申し送り時で伝達している。また、ケアプランを各ケース記録毎にチェックしやすいようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人の事業所と連携し、利用者の方の交流やリハビリへの意欲を引き出せるような関わりを試みている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じて、地区長や民生委員などの協力を得て、少しずつ地域住民の方々にグループホームの存在が浸透してきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の確認と緊急時の往診体制などの兼ね合いにより、入居時に受診体制をご本人とご家族に確認し支援している。また、認知症の症状により専門医の受診も主治医と相談し、受診できるよう取り組んでいる。	有限会社が経営する事業所であるため、月2回の往診があり、利用者の状況に変化があった場合には随時受診でき、常に適切な医療が受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体の変化など体調観察を行い、異常があれば看護師(管理者兼務)へ報告し協力医療機関等へ連絡、往診や受診の支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはグループホームから情報提供を行い、また、病院ケースワーカーを窓口とした連携を早期に図り、ご家族とも連絡を取り合い早期の退院に向けて、話し合いを行い安心して戻るよう取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状況について、主治医へ情報提供を行い、状況に応じて主治医から予測される状態変化をご家族へ説明を行っている。また、グループホームからはグループホームで対応できることを説明し、ご家族の意向も確認しながら取り組んでいる。	事業所は重度化への対応や終末期の看取りについての指針や同意書を作成し、事業所でできないこと等を全職員で共有し、実践している。実践にあたっては利用者や家族等と十分話し合っている。看取りを経験したことにより、職員間の意識の共有も図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成し、新人職員にはオリエンテーション時に説明を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月のグループホーム会議時に避難訓練を実施し、前回の反省を踏まえながらより効果的な避難方法を検討している。消防署員立ち会い時には、屋外に設置してある非常ベルを作動させ、近隣住民の協力を得ながら避難訓練を行っている。また、災害に備えて食料、水等の備蓄を行っている。	月1回事業所での簡易避難訓練を実施し、更に年2回消防署や近隣住民の協力を得て防災訓練を実施している。また、地域の自主防災訓練組織にも加入している。災害時の食料品等も備蓄している。	地域消防団との連携を検討中とのことである。早急に連携されることをが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的に利用者の人格を尊重した言葉づかいや態度となるよう心がけている。また、電話での問い合わせなどについてはご家族に確認した上でやっている。	全職員が利用者の誇りやプライバシーを尊重した対応に努めている。また、個人情報の保護の徹底についても十分理解し、実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が訴えたい内容がなんなのか？会話や行動を通して注意深く観察し、対応するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おひとりおひとりに合わせ入浴や外出、食事の準備、洗濯物のたたみやレクリエーションなどをその日の状態によってご本人の希望も取り入れて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院へは、なじみあるところへ行けるように支援し、お化粧品など出来る方は行っていただけるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	玉葱の皮むきや茶碗拭きなど出来ることをやっていたり、食事の好みに合わせてその方にあった他のメニューにしたりして取り組んでいる。	食事の準備は利用者が出来ることを職員と共に行っており、食事は職員が同じ食卓を囲み、利用者に応じた支援をしながら職員も一緒に食事を楽しんでいる。利用者の希望により居室で食事を摂っている方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は水分チェック表などを用いて把握に努め摂取量が少ない場合は、本人が好むようなものを提供し摂取できるように努めている。また、身体機能に合った食器も取り入れ摂取しやすきように対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方には声かけを行い、介助が必要な方には介助し清潔に努めている。就寝前には義歯の専用洗浄剤に浸し、清潔を保てるように行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンの把握に努めトイレへの誘導を行っている。夜間にパットを使用されている方にも巡回時、「トイレは大丈夫ですか？」と声かけを行っている。	全職員が各利用者の排泄パターンを把握して、支援している。また、オムツ使用の軽減等の排泄改善に努め、入居時にオムツを使用していた利用者がオムツを使用しなくなった等の改善事例もみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューに繊維物を取り入れたり、水分摂取を促し、また、できる範囲で体操を行い、自然排泄ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけを行い拒否がある場合には、時間帯をずらしたり翌日に変更するなどして対応している。	入浴は利用者の希望にそった支援をしている。入浴の拒否がある場合には声掛けに工夫しており、利用者の羞恥心にも配慮した支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝や起床は、おひとりおひとりの生活パターンを考慮し声かけを行っている。また、傾眠している時など、自室で休むよう声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが薬剤情報を確認しながら薬の管理を行い、日常的に身体の変化には気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日の生活の中で、茶碗拭きや食事の準備、また昔の歌を歌ったり、おひとりおひとりに合った生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おひとりおひとりのご希望に沿った買い物に出かけたり、季節に合わせた花見や紅葉狩りドライブ、地域の盆踊り見物など支援している。	季節にもよるが、散歩を日課としており、利用者の希望により買物、散髪等の支援をしている。また、事業所の行事として、お花見、紅葉狩り、地域のお祭りへの参加、ドライブ等外出の機会を多く企画し実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方にはご本人・ご家族の希望で手元に現金を持っていただき、買い物などした際には自分で支払いいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により電話をかけ本人に話をさせていただき、本人が書いた手紙をポストに出してきたりしている。ご利用者によっては、携帯電話を使用されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのはき出し窓から中庭を眺められるようにし、季節に合った音楽を流し、リラックスできるよう工夫している。	共用空間のテーブルは少人数で過ごせるよう配置され、玄関や廊下等に椅子を配置し、利用者が思い思いの場所で過ごせるようになっている。季節によっては出入り口や窓等を開け放し、事業所内には心地よい風が通り抜けるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールから離れたはき出し窓にイスを1~2脚置き、お1人になったり2人で話ができる居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	ご家族の写真を貼ったりして、ご本人になじみある物を配置しつつ、転倒予防にも工夫し本人が望むような空間づくりを意識している。また、ご家族が本人が望む物品をホーム内に持ち込まれる際には、配置や使い勝手など、安全確保に配慮しながら、どのようにしていったら良いのか職員間で話し合っている。	利用者が自分の好みの品や使い慣れた家具等を持ち込み、それぞれが個性的で居心地良く過ごせる居室となっている。また、利用者の身体機能に配慮した家具や便器等の配置を考慮し、安心して生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使いやすく家具の配置を変えたり、イスやテーブルを伝い歩きできるよう配置している。		

### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 なごみの里グループホーム

記入担当者名 白川 紀代

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。